久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協 ひろば

第９０号　（準備会から通算第 111 号）
発行日　令和６年 10 月５日
発行所　逗子市久木２－１－１
久木小学校区住民自治協議会
発行人　山崎　徳次郎

・・・防災を考える・・・

情報収集にスマホを活用、防災を自分事として

今年１月の能登半島地震は記憶に新しいところです。
私が住む久木地域は幸いにも最近大きな災害は見舞われたことはありませんが、過去には昭和 30 年代に久木川の氾濫により水害が発生したそうです。久木川は昭和５年から昭和８年にかけて久木川の改修が行われ、現在のようなまっすぐな川になったようです。当時改修に尽力された方の石碑が久木会館向い側の聖和学院脇に刻まれておりますので、折を見て先祖の努力を確認してみてください。

災害は、いつ発生するか分かりません、台風、津波、風雨水害はある程度時間的余裕がありますので、事前避難の対応ができますが、地震となると予想出来ず、昼夜問わずいつ来るかわからないからこそ、絶えず災害の備えは必要となります。

人の噂も七十五日と言われるように災害も忘れ去られてしまうもので、地震を体験した人はいつまでもその恐怖を身体で憶えているものです。私が子供のころ母親が押し入れに風呂敷包みの中に、ロウソク、マッチ、印鑑、衣類などを入れているのを見たことがありました、母は大正 12 年の関東大地震を体験したことで、いざという時持ち出せるようにしていたようです。

「備えあれば憂いなし」であります。
普段の備えとして、私たちができることは、地震による津波の避難場所への避難経路確認やどの避難場所に避難するか日頃から確認しておくことが必要と思います。
災害発生後の対応は、「備災」である、防災、減災はよく聞くが、備災とは読んで字のごとく災害に備えることで災害後の対応に備えることです。
「いつ来るか分からない不安」・「来ないかも知れない　無駄かもしれない　だけど備える」
・「不安を安心にかえるには備えが必要」

もう一つは、災害発生後の情報収集の重要性です。能登半島地震では、情報がなかったことで被災者に不安が広がったそうです。情報収集の方法として、テレビ、ラジオ、自治体によるスピカー広報等があります。それ以外に多くの皆さんが持っておられるスマートフォンを活用することです。安否確認や災害状況等を知ることができます。（偽情報に注意を要する）

高齢者でも多くの方が持っておられますが、使うのは通話のみという人も多く、持っていても機能が使い切れていないのが現状ではないでしょうか。ここに「情報の格差」が生まれます。情報を取れる人（機能が分かる）、情報を取れない人（機能が分からず不安）で、例えば避難所に物資がいつ届くのか等情報を知る人、情報を取れない人がいることから、その不安を解消するためにもスマホの操作を憶えていただき情報を取れる人になっていただきたいです。

今後の課題として、地域住民の方の防災意識の向上を図るにはどうしたよいのか、そのためには防災関係行事への積極的参加をお願いし、自分事として捉えていただきたいと思います。

校区住民協　理事　鈴木　友行

令和６年９月度役員会

開催日時と場所：2024年９月７日（土）13時00分～15時10分、久木会館　出席者：20名（内役員14名）

議題

(1) 行政からの連絡事項

①逗子消防署北分署及び消防団第５分団詰所建替えについて

首題の件の説明があった。消防団第５分団詰所は逗子消防署北分署に統合され、建物は解体、更地にして熊野神社に返還されるため、２階にある山の根会館は機能がなくなるとの説明があった。

また近年の消防署活動の特徴として、救急搬送が3960件と急増している、一方、火災は昨年８件と煙探知機の普及もあって、減少傾向にあるとの報告があった。

(2) 事務局からの報告事項

テーマとして、環境・逗子市に新設されたデジタル課の職務内容・起業のためのクラウドファンディングなどを考慮していることが報告された。

また、推薦したいテーマ、講演者などがあったら事務局に連絡するよう要請された。

(3) 審議事項

①無線機の件

行政より、防災に関する補助金の決定は例年８月中旬までに実施されていたが、本年は申請件数が多く、補正予算が必要となる為、議会承認が得てからの実施となり、10月にずれ込むとの説明があった。本件に関し事務局より、11月の久木地区の防災訓練に間に合わないと訓練項目に支障が出る旨説明し、10月１日をもって無線局開設、無線機購入などの手続きに入って構わないとの確約を得たとの報告があった。

尚、各自治会がアクションをおこすに際し、10月１日に再度事務局が確認し、各自治会に連絡することとなった。またリスク回避の為、市の助成金の対象とならない６台の無線機を先行手配したらよいとの意見が出されたが、手続きが煩雑となる為、同時に実施することになった。

②減災部会報告

8/26日に実施された減災部会で、地震に関しての講習、また当面の活動事項などにつき議論したことが報告された。

③11月の防災訓練/避難所準備体験訓練の件

配布資料③を基に、11月17日に実施される防災訓練の計画内容が紹介された。

例年と大きく異なる点は、Webアンケート内容を被災１週間後の想定とする、災害ボランティアセンターの設置訓練を取り入れるなどであるとの説明があった。

議論の結果、災害ボランティアセンターの設置訓練に関しては、意図する実施内容・効果に不明な点が多々あり、更に社協も含め検討をするよう要請された。

④住民協ひろばの特別号の件

「地域サロン活動」を特集するにあたり、瓶子氏より、現在実施している、対象のサロンへの取材状況について報告された。

12月の広報逗子と一緒に配布する為に、11月中旬の完成を目指して進める事が確認された。

⑤その他

a)「わんわんパトロール」について

江渕氏より、配布資料③を参考に、首題の件につき説明があった。また、長嶋氏よりハイランド地区で実施している「わんわんパトロール」につき説明があった。

本件は各自治会で検討して、進めるよう事務局より要請された。

b)拡大朝市の件

11月23日に拡大朝市を開催する旨説明があった。会場は校舎の改修工事を見据えて、体育会で実施する。また久木会館を使用するかについては、再度検討するとの説明があった。

c)コミニティー助成事業の件

首題の件に関して、行政より９月17日までに申請するよう要請されていることが報告された。本件に関し、会議中のマイクの増設を申請したいという意見があり、申請に向け検討することになった。

d)中間会計報告の件

首題の件に関し、９月末日で前期決算をまとめることが確認された。

拡大朝市　予告

日時：１１月23日

場所：久木会館、久小体育館

≪寄稿≫　源氏物語の迷宮

校区住民協　理事　森戸　久朝
（久木地区民生委員）

2024年の大河ドラマは「光る君へ」、世界最古の長編小説といわれる「源氏物語」を生みだした紫式部の生涯を描くとのことで、展開される平安時代の人間模様を楽しんで見ている。

そこで、ひと時、「源氏物語」の世界へ迷い込むのはいかがだろうか。

まず「源氏物語」の題名だが、後の時代に「源氏の物語」「紫の物語」「光源氏の物語」など様々な題名で呼ばれていることから、執筆時に著者は命名していなかったと考えられているのが面白い。

そして、書き出しの部分

「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひ給ひけるなかに、・・・・」

高校の、古典の授業で習った方も多いと思うが、「今は昔」という書き出しではなく、「いづれの御時にか」という言葉で、どの天皇のみ代であったかは特定出来ないが、何代か遡った帝の時代、雲の上の存在である帝にまつわる宮中物語であることを感じさせ、ただの昔話ではない、リアルティを醸し出していて、冒頭から読者の興味をかきたてる仕掛けが実に見事だと思う。

全54帖のうち第41帖の「雲隠」は巻名のみあって、本文はまったくない。そしてそれが、光源氏の死を暗示している。これが当初から意図されていたとしたら、心憎い演出だと思う。

だいたい映画化、ドラマ化されるのは前半の光源氏の波瀾万丈の恋物語と栄華を極めていく様であるが、私が推薦したいのは、39帖「御法(みのり)」だ。女三ノ宮の降嫁を受け入れざるを得ず、正妻には出来なかったが、最愛の妻で、長年ともに暮らしてきた「紫の上」が大病の後、病がちとなり、日々衰弱して、そのまま亡くなってしまう物語が書かれた帖だが、最愛の人を無くすことになる光源氏の悲嘆にくれる姿が、前半の光輝くようなスーパーヒーローから、身近な存在になったような気になるのは私だけだろうか。中でも以下の和歌が心に沁みる。

病床の紫の上が、もう先が長くはないと悟って詠んだ歌

「おくと見る　ほどぞはかなき　ともすれば風に乱るる　萩の上の露」(起きてはみるけど、もうこの命が消えるのは間もないでしょう、まるで風に乱れる萩の上にある露の如く、先は儚いものです)　この歌への光源氏の返歌が

「ややもせば　消えをあらそう　露の世に　遅れ先だつ　ほど経ずもがな」(ともすれば我先にと争うように消えていく露のような儚い世です、だからせめてどちらかが遅れ残されたり、先立ってしまったりせず、一緒に消えたいと思っているのです。)　光源氏が拭うこともできないほど涙にくれる、別れの場面のこの歌が、美しくも儚い、切々とした雰囲気を伝えてきて胸に迫る。特に「一緒に消えたい」という心情が、残される身の悲しみを端的に表していて、秀逸である。

そして次の40帖「幻(まぼろし)」では紫の上の死後、光源氏が悲嘆にくれ、何をしても紫の上への思いが募るさまが描かれているが、その心情を切々とあらわしているのが、この歌

「夜を知る　蛍を見ても　悲しきは　時ぞともなき　思ひなりけり」(夜になったことを知って光る蛍を見ても、悲しいのは昼夜となく燃える亡き人を恋うる思いである。)。

この40帖を読み終えた時、人は2度生きることが出来るのだと思った。1度目は肉体と共に、そして2度目は誰かの心の中で。

源氏物語の世界は、迷い込んだらその魅惑から抜け出す事が難しい、まさに迷宮である。

あなたは2度生きられますか、誰かの心の中で・・

校区総合防災訓練のお知らせ・・・・・校区全域と行政との連携を目指す

日時：１１月１７日　　場所：久木小学校、各地域

内容：＊地区防災拠点の設置と地域との情報連絡　＊避難所開設と運営　＊地域の状況把握、他

≪レポート≫　９０歳の感想

ポジティブに生き、そしていささかの違和感

校区住民協　理事　鈴木　為之

私は今年の３月に９０歳となりました。

昭和の時代なら,「卒寿、おめでとう」と言われ、素直に喜びを分かち合ったことでしょうが、高齢者の増えた令和の今は、おめでとうの元であった希少価値はなくなり、おめでとうの歳ではなく、単なる通過点となっているのではないか。恐らくは白寿といわれる百歳直前で、初めて「おめでとう」と言われる時代になりつつあるのではないでしょうか。

一方で、これまであまり歳を考えることのなかった私が「俺も９０歳になったか」と、一つの節目を意識したのは偽らざる事実です。やはり人生の一つの区切りではあるでしょう。

生まれてから90年、物心ついてから80年という時間は、考えてみれば長い貴重な時間です。

私が生まれた昭和９年（1934）は明治維新の明治元年（1868）から数えて66年、関東大震災の大正１２年（1923）から11年。戦争が終結した昭和20年（1945）から今年・令和６年（2024）は79年。明治維新から昭和９年までの時間は、戦争が終わり今日まで経過したよりも、遥かに短いことは驚きですね。その近しい明治維新は、或いは１１年前の関東大震災をも含めて、意識の中では全く歴史となっているが、８０年前の戦争や戦災或いは飢えの体験は、昨日の事のように時間の経過に無関係に意識の中に残っています。貴重な財産となっているのでしょう。現実に体験したことか、知識として習得したことかは、本誌冒頭の鈴木友行さんの文中にあるように、次元の違うことのように思われます。

「９０歳、何がめでたい」という本が、映画化されて上映されています。

９０歳を迎えてのもう一つの感想は、この「何がめでたい」ですね。加齢とともに否応なく、体力も脳力も年毎に落ちていくのを実感します。家の前の坂道を上るのに息が切れるようになった、名前が浮かんでこない、眼鏡をどこに置いたか、心臓がパクパクするようになったので専門医を訪ねたらまた薬が一つ増えてしまった、等々きりがありません。

聞こえが悪くなった、モノが見えづらくなった、というセンサー機能の衰えも進みました。多分人と話をしても、半分ぐらいはいいかげんな問答をしているのではないかと。

よく言われるのは「本当にその歳ですか？？」何歳の人はこうでなければならないといった決まりがあるわけではないし、加齢すればする程個々人で違ってくるでしょう。

私の行動を自己分析すれば職人（Workman）。職人というのはいつも何かをしていなければ気が済まない人種です。何時も体を動かし、そして脳を刺激しているのが、私の歳を作っている元なのではないかと思います。

これからの時代、高齢者がポジティブに生きていくためには、歳相応に少しプラスして体を動かし汗をかくことが大切なのではないでしょうか。

最後に一言、７０歳代が人口の大きな部分を占め、高齢者の社会参加が求められるこの時代に、政治の世界で若手といわれる議員が、７３歳定年を唱えて一律に高齢議員を排除しようとしているのには（文芸春秋・９月号）、いささかの違和感を感じますね。

編集後記

秋の２４節句・・・今年は９月２０日を過ぎて猛暑日が続く。

24 節句は昔から人々の生活の目安として春、夏、秋、冬の四つに定め、季節毎に季節の変化を六つ毎に分類している。

秋は、8/8 頃＜立秋＞、8/23 頃＜処暑＞,9/8 頃＜白露＞、9/23 頃＜秋分＞、108 頃＜寒露＞、10/24 頃＜霜降＞となっているが。現在のわが国の気候は春、秋が短く従来の季節感と異なってきているのだろうか、気候温暖化を真剣に考える時に来ている。

事務局長　石井達郎